

### 3 「思考力」を育成する学習指導の実際

単元 「ようすを思い浮かべてー2 西れっ車で行こうー」(2年)

— <本時育成したい「思考力」> —

汽車の走る情景をイメージし，速さや強弱を考えて演奏の仕方を工夫する。

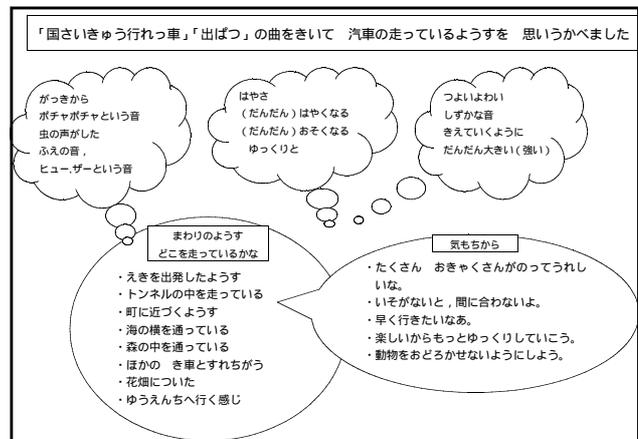
ここでは，上記の「思考力」の育成を目指して行った授業「汽車の線路の軌跡図に合った強弱や速度などの表現の工夫について考える」における教材と反応の組織化について述べる。

#### (1) 学習指導レベルにおける教材

様々な場面を走っている汽車の軌跡図づくり

「汽車がどんな道(線路)を走ってそれぞれの場面へ行くのだろうか?」という発問をした場合，「海の横を走っている」「駅を出発したところ」「野原へ花を見に行くところ」というように，子どもたちは様々なイメージをもつ。イメージをことばで語ろうとしても，抽象的な思考となり，それは個々の子どもの内面で行われるものである以上やむを得ない。しかしこれでは，イメージを共有化して音素材を選んだり，音楽的要素の工夫をしながら表現へ結び付けたりすることはできない。そこで，汽車の走る様子を軌跡図に表すような活動を展開する。まず，各グループ(海，駅，嵐，野原，森)に分かれ，それぞれの場面を汽車が走っている時に聴こえてくる周りの音を絵で描かせる。そうすることによって，「を走っている」というイメージに加え，「森の中に入るとキツツキの鳴き声がしている。」とか「駅に近付くと踏み切りの音が鳴っているよ。」というように，ことばのみの抽象的なものでなく，周りの場面を具体的にイメージすることができ，共有化を図ることができる。

さらに，汽車の走る軌跡について話し合わせることで，汽車がただ平坦な道を通ってそれぞれの場面に行くのではなく，「森の中へ行くためには，坂道を上って山へ行くよ。」「野原の花を見に行きたいからスピードを上げて走ろう。」など，より詳しいイメージを共有しながら線路をつくることができる。このことは，多様な音楽的要素としての反応の表出へとつながるものである。



#### (2) 子どもの反応の組織化

「汽車が坂道を上る時の演奏の仕方を考えよう」という学習問題に対し，子どもたちは演奏の仕方とその理由について話し合った。

子どもたちは，坂道を上る際の音楽的要素の工夫の仕方として，速さと強弱の2点について考えた。そこで，まず速さについての意見を聞いてみた。

A 児「坂を上るときは，しんどくなってスピードが落ちてくるのでゆっくり演奏したいです。」

B 児「力強くゆっくり演奏したいです。坂が急なので，ゆっく



り上るしかないからです。」

C児「ゆっくり演奏したいです。坂が長いからです。」

上記の3人はことばではいずれもゆっくり演奏すると発言しているが、A児はしんどいという「気持ち」から答えているのに対し、B児、C児は「坂道の様子」から客観的に捉えて考えている。

#### 【異同関係の明確化】

「気持ち」と「周りの様子」というキーワードを提示し、それぞれの意見がどちらの根拠を基に音楽的要素の工夫をしているか、みんなで仲間分けをしていく。

こうすることで子どもたちは、同じ音楽的要素を使っても根拠となる情景(心情や場面の様子)が異なることに気付いていった。さらに、前時までに鑑賞曲のもつ音楽的要素や汽車の走る様子などからイメージをしていることで、培った視点が再び坂道を表現する際に音楽的要素と結び付けて表現の工夫をすることができた。

その後、「先程の坂道の演奏の仕方を自分たちのグループの場面に置き換えて考えよう。」と自分たちの演奏に立ち返らせる場を設定した。

海グループの話し合いでは次のような場面が見られた。海の中を走った汽車が砂浜へ向かって出てくるという場面を設定した子どもたちは、その演奏の仕方について話し合っていた。子どもたちは、先程の坂道を上る様子と置き換えて、「海の中から砂浜へ出て行くのだからゆっくりとした方がいいと思います。」という意見が大半を占めていたが、D児だけが「速くした方がいい。」と発言し、グループ内で意見の対立が起こった。

#### 【グループ内での意味の共有化】

「なぜ、速くした方がいいの?」「意味が分からないので訳を言って下さい。」と具体的な根拠を説明するよう発言を促す。

D児は、「汽車は、坂道に負けなくらいがんばらなくちゃ!という気持ちがあるから速くなります。」と根拠をあげて答えた。このことから、D児は「負けなく」という心の動きや心情の高まりを「速い」と表現しているものであって、スピードのことではないことが分かった。このように、一見音楽的要素の工夫の仕方が対立していると思われる場合でも、具体的な根拠(気持ちや周りの様子)や、生活経験と結びつけながらグループ内で意味の共有化をすることで、よりよい表現の仕方が見えてくるのである。



先程の意見である「負けなくらいがんばらなくちゃ」という気持ちについて、グループ内でさらに詳しく話し合っていくと、速度というよりも強弱へのこだわりが明らかになってきた。そこで、音楽的要素と結び付ける時に、「D児さんは、速さよりも力強さを出したかったんだね。」と助言した。すると、他の子どもたちも「スピード(助走)をつけておかなければ、坂は上れないことがあるね。」と、生活経験からD児の意図を説明したり、「汽車のがんばろうという気持ちから、ゆっくり上りながらだんだん強くしたらいいんじゃないかな?」と、強弱を大切に考えているD児の意見を確認しながら、よりよい表現の工夫をグループ内で見出していった。